

すなやま支援員

VOL.77

だより



令和 6年 9月 発行

発行者:砂山地域集落支援員 阿部久美子

拠点施設:ぎょぎょかい めてたや

住所:塩谷1181

電話:62-7273



暑さ、寒さも彼岸までと言いますが、異常気象が日常となりつつあり暑すぎた夏も過ぎ、少しずつ秋らしい気温になってきました。コロナも依然として流行っているようです。引き続き体調管理に、気を付けましょう。



令和の米騒動?!

8月の終わりころ、全国でスーパーの陳列からお米が消えるニュースを見て、もう少ししたら、新米の時期になるのにと、去年の作が悪かったから、収穫量が若干減ったのかもと、他人事のように思っていたのですが、名古屋からスケートボードしにきた友達が言うことには、名古屋のスーパーではお米が売ってなくて、(今回はスケートボードよりお米がメインかも。)村上のスーパーでもお一人様1袋までと個数制限がかかっている、3袋しか買えなかったという話を聞き、にわかには信じられなく、実際に見に行ってみると…。

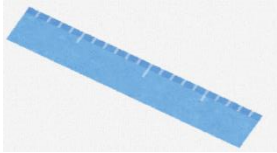
お米の棚がガランとしている店、自社製品の水など別なものに置き換えてスペースを埋めている店、レンジでチンして出来るパックご飯が並んでいる店など、「お米の国」新潟県でも、実際にこんなことが起きているとは!!と、びっくりしました。



海外から日本に来た外国人が、日本のお米の美味しさと生産時の品質の安全性に感動して、お土産に買って行ったからだとか、小麦も高くなりパンの値段が高くなり、安定した価格のお米の消費が増えたからだとか、南海トラフ地震への備えから一時的に備蓄するために買ったので、コメ不足に拍車がかかったとか、その全部が重なったためというのも、あるだろうが、一瞬、「平成のコメ不足」の時の騒動が頭をよぎり、ごはん大好きな私としては、やはり米なしでは、生きていけない。売ってないとなぜか不安になるもので、パックのご飯を買ってみたものの、夕飯のご飯が足りずに3パックを使い切ってしまう、お米は食べちゃうからと次の日に餅を買って、なんの解決にもなっていないことに気づき、苦笑いをする事となった。

異常気象や温暖化など、今までの経験や日頃の生育に気を配り、手間暇かけて、美味しいお米を作ってくださいる農家の方には、頭が下がる。

手間暇かけたお米だからこそ、高く売れたらいいけど、あまりに高級品になると、毎日食べるには敷居が高くなる。なんとも悩ましい話だが、当たり前のように、美味しいお米を作ってくれている農家さんに感謝しなければとつくづく感じる出来事でした。



自分のものさしを疑え!!



何気ない日常を過ごしていたある日、長男から「お願いだから普通のお母さんになって」と言われたことがある。え？どうゆうこと？普通でしょ？とって、長男の言う普通のお母さん像をあれこれ聞いてみると、知り合いの中で一番美しく、純粹でかわいらしいお母さんを普通だと言いつつ。と同時に普通ってなんだろう？という疑問がわいた。普通という基準は自分が生きてきた経験や、見聞きしてきた事が基本になることが多いけれど、もしかしたら自分が都合の良い基準を自分で、普通は～とか一般的には～と言って相手に押し付けているだけなのかもしれない。

会議で話をしていると、自分の意見を言うことも大切だけれども、ダメだ、無理だ、現実的ではないと、否定してあきらめるまえに、目標があるならば、試行錯誤して意見を出し合って実現できるように考えたり、代替え案を提示するのが、大人の役割なのでは？やっている人が本気で楽しめないことを、手伝ってくれる人が楽しいと感じるだろうか？それとは逆に、あんまり気乗りしないイベントに、いやいやながら参加してみたら、さすがしくやり遂げた達成感に出遭うこともある。やってみなければ、何も始まらない、試しにやってみよう精神は、とても大切だと思う。

人口減少が顕著になり、今まで集落でできていたこともままならなくなり、縮小や形を変えて引き継がれ、少子化で学校も統合されている今、私たちには昔と同じように、物事をしようと思うのは、無理な話かもしれない。集落での各役員のあり方も、余力があるうちに見直して精査しておかなければ、頭数は減っているのに、現状を継続するのは、一人の仕事量が増え、大変だからやりたくないとの連鎖になる。

砂山地域の集落支援員になってはじめて意識して興味を持たないと、見えてこないこともたくさんあることを知り、地元に住んでいてわかっているようでも、結局何もわかっていない自分を反省した。

自分たちの地域は自分たちが住みよいようにみんなで作るもの。けして行政につくってもらうものではない。

今、住みやすくないと思う人がいるなら、そんな人こそ、意見を言える場に参加してほしいと思う。

可もなく不可もなくというなら、もっと良い方に、変えられることはないか、考えてみてもらいたい。

息子が望む、普通の母にはなれなかったようだが、何事も自分の「ものさし」が普通の基準から外れているかもしれないと常に疑い、慎重に行動し、柔軟な考えや自由な発想を否定せず、よりよくするにはどうすればいいか、一緒に考えて手を差し述べて、背中を押せるような初老になりたいと私は思う。

すなやま支援員だよりについてご意見、ご希望がございましたら、お気軽にお問合せください。☺

Eメールアドレス: sunayama.shien@gmail.com